

平成 29 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名: 富 士 石 油 株 式 会 社
代 表 者 名: 取 締 役 社 長 柴 生 田 敦 夫
(コード番号:5017 東証第一部)
問 合 せ 先: 総 務 部 IR・広 報 グループ 簾 内 清 人
TEL: (03)5462-7803
URL: <http://www.foc.co.jp/>

第二次中期事業計画の策定について

当社は、平成 29～32 年度(2017～2020 年度)の 4 年間を対象とする第二次中期事業計画を策定いたしましたので、その概要を以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 基本方針

石油製品の内需減少傾向が継続するなど、石油産業を取り巻く事業環境はより一層厳しさを増しており、また、平成 32 年には船舶燃料油の硫黄分規制が強化されるなど需要構造の不確実性も高まっております。

当社としては、アスファルトピッチ焚きボイラー・タービン発電設備(ASP-BTG)の稼働によって、原油価格等の市況変動および需要構造変化に対し、従来以上に対応力を有することとなる袖ヶ浦製油所を、柔軟かつ機動的に運営しつつ、分解能力を一層高めるなど一段の競争力強化を図ってまいります。

その上で、国内のみならずアジア新興諸国はじめ海外における事業機会を確実に捉えていくこと等により、収益の安定拡大および企業価値向上を目指します。

2. 取り組むべき課題

(1) 袖ヶ浦製油所の稼働信頼性の維持・強化

- ・ 安全・安定操業を前提とした運転管理・設備保全の一段の効率化、高稼働維持
- ・ 技術の伝承・向上、高度な技術力・保安力を有する人財の育成
- ・ IoT など先進技術を活用した取り組みの強化

(2) 高付加価値化・コスト競争力強化

- ・ 超重質原油の受入・貯蔵設備の拡充等による、原料油の更なる低廉化
- ・ 分解能力の増強、化成品など高付加価値製品の増産・多様化による付加価値の最大化
- ・ ASP-BTG の最適運用による大幅な精製コスト低減とエネルギー効率改善の最大化
- ・ 省エネルギー諸施策実施、総経費の合理化等による、一層のコスト削減と環境負荷低減

(3) 輸出対応力強化

- ・ 国内屈指の大型栈橋を中核とした輸出設備の能力増強・機動性の強化
- ・ 海外拠点の体制強化、海外で活躍できる人財の育成

(4) 新規事業展開の検討

- ・ 袖ヶ浦製油所の事業基盤を活用した新事業展開の検討
- ・ 事業ポートフォリオの多角化に向けた検討

3. 利益計画(連結)

(単位:億円)

	平成 29 年度 (見通し)	平成 32 年度 (計画)	増減
営業利益	71	105	34
経常利益	48	85	37

* 平成 32 年度営業利益、経常利益には在庫影響を含まない

計画の前提条件: 原油価格(ドバイ原油) 70ドル/バレル
為替レート 110円/ドル

4. 投資計画

稼働信頼性向上、省エネルギーおよび重質油処理能力強化など競争力強化に向けた投資 130 億円を含む、総額 230 億円の設備投資を実施します。

5. 資金計画(平成 29~32 年度累計)

キャッシュ・イン	475 億円	税引後純利益 205 億円、減価償却費 270 億円
キャッシュ・アウト	230 億円	設備投資
フリー・キャッシュ・フロー	245 億円	資金バランスを考慮しつつ借入金返済、株主還元、追加設備投資等に充当します

以上

予想数値に関する留意事項

本資料記載の予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な要因により予想数値とは異なる結果となる場合があります。